

2012年9月11日

宇宙政策委員会委員

松本 紘

第4回宇宙政策委員会を欠席するため、書面にて意見を申し述べたい。

前回委員会において、長期的な国家戦略としての宇宙政策を議論すべきであり、現行の計画に基づいた施策の成果の検証に基づき、基本的な考え方の枠組みから議論すべきであり、今のように既存のプロジェクトの項目別に議論するだけではなく、何のためにやるのかという目的と、その目的を達成するための手段のマトリクスで考えるべきであると述べた。その上で今回の議題である現行の宇宙基本計画のフォローアップと新たな宇宙基本計画に盛り込むべき事項（総論）に関して、また今後の議事録の取り方について意見を述べる。

資料1：「現行の宇宙基本計画のフォローアップ」についての意見

- 現行の計画は年間約 5000 億円の予算を想定して作られている一方、この間の宇宙予算は年間約 3000 億円で推移しており、約 2000 億円が不足している。にも関わらずほぼ全ての項目において評価は「計画通り進捗中」となっている。そのため、ほぼ全ての項目で、当初の予算の見積もりが多かった又は少ない予算で計画を予定通り遂行できた特段の事情があったのかについて、整合性のある説明がなされるべきである。
- 各プロジェクトの進捗状況だけでなく、個々のプロジェクトが、安全保障、外交、環境・エネルギー、安全安心の国づくりなど、国の政策目的、或いは国家戦略の中でどのような位置づけにあり、宇宙以外の政策とどのように連携がとられ、どれほどの成果があがったのか検証がなされるべきである。
- 現行の計画に含まれる項目の中で、次の5年間で継続・発展すべき項目はどれか、終了した項目、中止が妥当と見なせる項目はどれか、現行から予算を2割程度削減せざるを得ないと仮定した場合に優先度が下がる項目はどれか、を示して欲しい。

資料2：「新たな宇宙基本計画に盛り込むべき事項（総論）について（案）」 についての意見

- 新たな宇宙基本計画の骨子となるものであり、今後の現行計画のフォローアップや、これまで宇宙利用をしてこなかった分野へのヒアリングなどを経た上で、国家戦略の中での位置づけ、宇宙以外の政策との関係、重点的に行うべき分野の見直し、宇宙科学の位置づけ、有人・探査・宇宙科学の定義の明確化など、引き続き慎重な検討を要すると考える。

議事録についての提案

これまでの議事録は、委員の発言を内容ごとに要約する形になっているが、議論の流れを明らかにし、できるだけ議論をオープンにして国民的な関心と議論を喚起すべきであるという立場から、原則として議事録はできるかぎり発言順に時系列に沿った形で正確に記録する形にすることを提案する。